

鷺ごめ便り

218号

冬版

2016年(平成28年)

1月17日発行

編集・印刷:

馬込便り編集グループ

<題字 故黒田浩子姉>

鷺の選択

司祭 ヨナ 成 成鍾

動画共有サービスを提供しているユーチューブ(YouTube)に掲載され、多くの人に感動を与えた『鷺の選択(英語版: Motivational - Rebirth of an Eagle)』という動画があります。鷺は長生きする動物として知られていますが、動画は、その鷺の長寿というのは自然的なものではなく、自ら選択した熾烈な過程を通して得られるものである、ということ伝えていきます。各々のキリスト者、また教会共同体に大きな示唆を与えるものもありますが、具体的な内容は次の通りです。

鷺は、寿命が約70才だそうです。ところで70才まで生きるためには、途中で変身のための難しい選択をしなければなりません。40才ころになると、かぎ爪が長くなってしまい獲物を掴むことができなくなります。鋭いクチバシは長く曲がってしまいます。また分厚い羽で覆われた古くなった両翼は胸にくっついて飛ぶことが困難になります。そういう状況の中、鷺には二つの道が残されます。大きな苦痛が伴う変化の道を選ぶか、さもないとそのまま1年ぐらい生きて死ぬ道を選ぶか、ということです。前者を選択すると、先ず鷺は山の頂上にある巣に飛んでいきます。そして曲がっているクチバシが抜け落ちるまで岩に打ち続けます。そして新しいクチバシが生えてくるまで、何も食わずに待ちます。そして新しいクチバシが生えたら、今度はそれで自分のかぎ爪を引き抜くのです。新しいかぎ爪が生えてきたら、今度はそのかぎ爪で古くなった羽を引き抜きます。そのように約6ヶ月間、自己放棄の過程を踏むことを通して、鷺はあの有



名な再生の飛翔を遂げ、生まれ変わった存在としてさらに30年生き続けるようになります。これは、鳥の王子と言われる鷺が、未来のために選択した自己改革の過程です。

いかがでしょうか。その鷺のことに教会共同体をたどってみることは、無茶ぶりでしょうか。今の教会も、未来と再生のための難しい選択に直面している、と言えるのではないのでしょうか。そうしますと、教会そのものである私たちは、どういう選択をするのでしょうか。

進化生物学の基盤を整え、進化論の父と呼ばれるイギリスの自然科学者チャールズ・ダーウィン(Charles Robert Darwin, 1809-1882)は、次のような言葉を残しました。“最も強い者が生き残るのではなく、最も賢い者が生き延びるのでもない。唯一生き残るのは、変化できる者である。”

これは自然法則についての一つの理解ですが、人間の歴史や社会の営みなど、生態系全体にも当てはまります。教会共同体も、その法則のただ中にあります。生き物として教会の未来は、変化できるかどうかにあります。ところが、教会の変化というのは、組織的な規則や見かけなどを変える以前に、内面的なことから始まります。つまり、共同体ひとりひとりが鷺のような自己変革を選択し、その厳しい過程を歩むことから、変化は少しずつ生まれてくるのです。自己変革の過程の中、内なる命の力が強まり、真の愛によって導かれるようになります。すると外部的な変化は自然的に訪れます。それこそが、私たちの未来です。

日本聖公会 大森聖アグネス教会 東京教区

管理牧師 司祭 ヨナ 成 成鍾 (ソン ソンジョン)

〒143-0025 東京都大田区南馬込1-58-8

Tel&Fax: 03-3771-3459

e-mail: st.agnes.omori@gmail.com

ホームページ: www.nskk.org/tokyo/church/oomori/